

若手教員に伝えたい

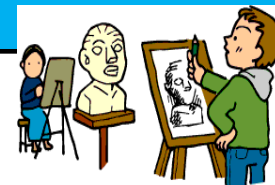
部活動の運営

H24.5 津山教育事務所

教育活動の一環として位置づけられている部活動。部活動を楽しみにしている生徒は多く、また教員もその教育的な意義を感じ生徒の技術向上や人間的な成長を願い指導をしています。反面、週休日の練習や遠征試合、会計管理、保護者への対応等配慮すべきことも多く、トラブルにつながるケースもあります。



中学校にも多くの若い教員が誕生しています。年度初めにそれぞれの中学校でもう一度部活動の望ましい運営について確認し合ってみませんか。



■遠征や練習試合の予定など連絡が遅く予定が立てられない。

■負傷や体調が悪いときにきちんとした処置がしてもらえなかった。

■部活動費の個人負担が高額で何に使われているのかわからない

■週休日や長期休業中の活動で生徒だけで活動している時間がある。

■宿泊遠征などの夜、引率の先生は生徒を見てくれているのだろうか

不信感やトラブルにつながる保護者の声

■限度を超えた厳しい指導が行われている。休憩や水分補給も十分ではなく健康面や安全面での不安がある。

■指導中に体への接触があったり、肩もみをさせられたりするのを嫌がっている。

【学校で行われている取組】

- 部活動の会計処理について学校で規約をつくる。また保護者に監査を依頼し、公表する。
- キャプテン会等を組織し、部活動の運営や問題点などを話し合う会議を定期的に設ける。
- 入学説明会やPTA総会等で学校としての部活動の考え方を保護者に示す。また部活動参観期間などを設け活動の様子を公開したり、部活動通信を発行したりする。
- 校内研修で部活動のあり方や緊急時の対応等について研修する。

部活動に対する生徒、保護者、地域の期待や要望は様々です。だからこそ学校としての方針や体制をきちんと整えておくことが必要です。

